

第3回上牧町地域福祉計画及び地域福祉活動計画策定委員会 議事録

日時：令和3年1月25日（月）

午後1時～3時

場所：2000年会館 2階 多目的室

1 開 会

- ・委員が過半数（13名）参加により会議が成立していることについて報告

2 委員長

- ・あいさつ

3 議 事

（1）地域福祉地域福祉計画及び上牧町地域福祉活動計画【素案】について

- ・事務局より、当日配布資料「素案差し替えページ」、「上牧町地域福祉計画及び上牧町地域福祉活動計画【素案】第1章～第2章」について説明

<質疑応答>

委員長：前段の第1章・2章について報告があった。ここままで何かご質問、ご意見はあるか。

渡邊委員：確認したい。14・15ページのデータは平成27年になっている。昨年国勢調査が行われたので、最新のデータに書き直すことはできないのか。令和3年から令和7年の5年間の資料になるのに、平成27年が最後なのは古いのではないか。

もう1点。追加資料の12・13ページの出生率が年度によって少し違う。意味があって違うのか、説明願いたい。

事務局：まず1点目の国勢調査の結果についてだが、今回は反映できない。

2点目の出生率の12ページと13ページの違いについては、資料の出典が違っている。13ページは奈良県や全国の率との比較のために、人口動態統計から資料が出ているので、12ページとは計上した月の部分で誤差が生じている。

事務局：補足したい。12ページの出生数は、上牧町の住民基本台帳を元に再度拾い直し、より実情にあった資料として差し替えて提示しているものである。

委員長：他いかがか。

西川委員：13ページの出生数の平成30年が全国的には7.4と下がっているのに、上牧町は5.6と上がっているのは何故か。何か良い原因があるのか。

事務局：ささゆり台ができてきているので、その影響が数字に反映しているのではな

いかと事務局としては考えている。

委員長：新しく転入されているということだと思う。町によっていくつか特徴があり、宅地開発がされて増えることがある。分析が必要だが、恐らく一つの要因はそれだということである。

他いかがか。

岡本委員：18 ページから前期計画の進捗評価の欄がある。例えば、重点的に取り組んできた小地域ネットワークについて、なかなかまだ理解が進んでいないという課題も含めて記載がある。一方では、地域の大切な取組として育まれて推進してきた現状の両面があると思う。せっかく冊子になるので、まだ理解が進んでいないのであればイメージがつくような絵なり写真なり解説なりを入れてはどうか。全体的に字が並んでいて良かったことも含めて浮き立ってこない感じがある。ページ数の関係もあると思うのであまり大きくスペースを取る必要はないが、せっかく進んできたことが埋没してしまうのは勿体ない。どこかでPRも兼ねた表記があっても良いと感じた。

49 ページが今回の計画策定のベースになる課題の総まとめになると思う。

「我が事」「丸ごと」という国でも示されたキーワードが出されている。「(3) 市内連携の「見える化」とあるが、内容は受け止める体制を横断化していくという趣旨になっている。もう少し相談のあたりをしっかりと受け止めているという打ち出しでも良いのではないか。

委員長：1 点目の 18 ページ以降について、冊子全体の構成で文字が多い。お伝えしたいことがたくさんあるのでどうしても文字が増える。写真や絵も含めて表現方法のご提案だと思う。

2 点目の 49 ページについて、これが第3章～5章に入るための大事な布石になる。「丸ごとの地域づくり」の「丸ごと」は、色々な捉え方がある。この言葉で良いのか、言葉の使い方についてだと思う。重ねて言うと(1)の「我が事の地域づくり」も関係性が薄くなってきたので我が事の地域づくりをしましょうというのは間違っていないが距離感があると感じる。このあたりの言葉の使い方は、少し工夫が必要である。

他いかがか。

尾崎委員：49 ページ(3)の「見える化」について。アンケート調査でも「どこに相談に行けば良いかわからない」という意見が多かった。今、下の窓口はわかりやすくなった。相談窓口を表にして図面化するとわかりやすいのではないか。

委員長：相談窓口や場所の一覧があるとわかりやすいのではないかとのことである。元々そういう表やデータはあるのか。

事務局：今のご意見の図式化というものは特に思いあたるものはないが、地域福祉で

施策を展開している中で相談窓口についてのご意見はアンケート等でもいただいていた。町と社協と地域の関係機関との連携体制の構築については、イメージ図としてお示ししたいと考えている。

委員長：計画冊子に具体的な一覧表を載せることの是非もある。もう少し皆さんが手に取りやすいものとして地域の皆さんにお示しできるものがあれば良い。ここに入らなくても別のところで発信する方法は大事だと思う。

西川委員：今次世代の後継者がいなくて地域の繋ぎができないという悩みがある。28・29 ページは、防災に非常に高い関心度があるというデータが出ている。社協は毎年1回防災の研修会を行っている。福祉部は防犯についてはわりと一生懸命されているが、防災の研修を受けたことがない。その温度差があってはいけないのではないか。第3章を見ても、そういうところが見受けられる。福祉部としての次世代に対する防災の考え方について教えてほしい。

事務局：アンケート結果から防災についての関心が高いことは十分に理解している。今回は地域福祉計画と地域福祉活動計画を一体的に策定し、社協との連携をより一層推進する。第3章以降の施策の展開の基本目標で「地域ぐるみでの防犯・防災の推進」という項を入れている。社協の取組に対して十分に支援をしながら、また地域の活動者が活動しやすい環境づくりについてもこのあたりで推進・支援していきたいと考えている。

西川委員：福祉部の心構えを聞いたが、それに対して社協からご発言いただきたい。

植村局長：初めて地域福祉計画と地域福祉活動計画を一体作成ということで、素案の策定段階から福祉部と社協職員が連携を取りながら進めており、相互理解が高まってきている。防災に関しても民生委員との繋がりということで民協の定例会でも振り返りの時間を取っていただいたりしている。関係機関を繋ぐ部分では十分今でも力添えをいただいている。そういう部分が他の分野にも波及していけば良いと思っている。

委員長：防災の具体的な取組もそうだし、アンケートにあるように防災や災害については関心が高いことを我々は受け止める必要がある。もう1つ、次世代の話もある。訓練だけでなく活動していく仲間を増やしていこうとした時、何に皆さんが関心を持ってアクションできるのかというところと結び付けていくことが必要である。29 ページのアンケート結果は非常に大事だと思う。第1章は全体の枠組みだが、今回の計画では1 ページにあるように「自助・互助・共助」がたくさん出てくる。例えば1 ページに【地域福祉のイメージ】とあるがイメージがつかない。文言の書き方や言葉の意味については事務局と相談の上整理したいと思う。

それでは第3章以降について事務局より説明願いたい。

・事務局より、「上牧町地域福祉計画及び上牧町地域福祉活動計画【素案】第3章～第5章」について説明

<質疑応答>

委員長：確認も含めてご意見をいただきたい。

吉田委員：全体に細かく網羅されていて結構な素案になっていると思う。ただ危惧しているのは、コロナ禍において人と人が繋がりがあえない。人と人が繋がりにくい関係になる可能性のある時期なので、AIに頼るような社会に変わる曲がり角かもしれないし、そうでないかもしれない。そのあたりの人との交わりをどのように捉えていけば良いのか。行政もこの中で人と人との交わりをどう繋げていくのかという部分が抜けているのではないか。

委員長：この状況が続くだろうし、新しい繋がりの方策を探しながらになる。そういうところの方策とまではいかないが、そのことを見据えた書きぶりについてのご意見だと思う。

岡本委員：50ページの第2章の最後に、今期計画のベースとなる課題が5つあげられている。その中に先ほど話題になった災害時を想定したものがある。この中でもコロナ禍が災害にも似た状況にあるという現状認識がされている。計画期間の5年間にコロナがどのようなようになっていくのかまだ誰にもわからないが、文化や価値観の違いで大きく揺れ動いているのが現状だと思う。何もできなくて残念に思うご意見もあった一方で、それが活動を見直すチャンスでもあったという現状認識がされている。こういう前提に立ち、だからこそ変えなければいけないこと、あるいは、だからこそこだわって形を変えてでも繋がるという目的を達成するためにやり続けること等色々あると思う。細かなところを書いてしまうと沈み込んでしまうので、基本目標の空いているスペース等を活用して、コロナをきっかけに浮き彫りになった繋がりを阻むような現状に関してどのように考えていくのか整理しても良いのではないか。

委員長：例えば、53ページのところに入れ込むというご提案があったが。

西川委員：62ページの「①小地域ネットワークの組織化支援」で令和元年度14自治区を令和7年度24自治区、71ページの「①シルバークラブに対する活動支援」のシルバークラブ会員数1,565を1,900とある。上牧町の高齢者は増えていくが、入会率がどんどん下がってきている。どちらもあまりにも前向きすぎる。数字の根拠をお願いしたい。

それと公助が重要視されているが、行政の職員数減を予測してやっているのか。

それから、「健康かんまき21」の認知度が非常に低いと聞いている。その認知度を高めて福祉部の柱としていくという基本理念を教えてほしい。

委員長：「健康かんまき 21」は何ページにあるのか。

西川委員：18 ページである。

植村局長：現行計画でも 24 地区を目指すとは上げており増えてはいるが目標には達していない。これを仮に 20 地区とした時に、どの地区を重点的にしてどの地区を立ち上げないと記載するのが適切かどうか議論した。実際にできるかどうかは別として、計画の目標値としては全地区にあることを目指すということであげている。活動内容の充実は数値としてはなかなかあげられないが、現状の 14 地区もそれぞれ活動内容の段階や取組の重点がどこにあるかが違う。数が増えるほど地区ごとの個性が出てくると思う。地域別や課題別の研修を行うという書き方になっているが、どちらかと言えば 24 地区を目指すことに重点があると言うよりは、5 年間でそれを目指しつつ、少しでも増やしていく中で現状の活動についても今よりきめ細かく支援をさせていただくことに重点を置いていきたい。数についてはおっしゃるように野心的になっているが、それを削るのはなかなか書きにくい。

委員長：中味がとても大事だし、組織化されていなくても様々な活動が地域でされていたりもする。そこを丁寧に見ていくことが、特に小地域ネットワークのところでは大事だと思う。

シルバークラブについてはどうか。

事務局：シルバークラブの計画値は、総合計画の K P I で設定している数字を載せている。高齢化に伴った人数を目標として設定しているが、年度ごとに課題、問題点を検証しながら進めていきたい。

委員長：あと公助についてのご意見と併せて 18 ページの「健康かんまき 21」については。

事務局：「健康かんまき 21」計画は、16 年目を迎える。子ども・成人・高齢の 3 つのグループに便宜上わけて計画している。確かに発足当時は全庁的に職員が課をまたいで活動していた時代もあった。今はそれまでの活動には至っていないが、16 年目を迎える活動が続いていることは有難いと思っている。この計画は、国の健康増進計画の「健康日本 21」に基づいて実行しているものである。住民の自主的な活動を、健康面からのアプローチという形で役場が支えて、多くの課と連携を取りながら実施していきたいと考えている。

委員長：公助の捉え方についてはどうか。

事務局：52 ページで説明しているが、地域から相談があった時に地域、行政、時には専門機関の支援が必要になってくると考えている。包括的な相談支援体制を推進していく中で、地域との繋がり、行政庁内の連携、専門機関等との連携をより一層推進していくイメージで、地域福祉計画及び地域福祉活動計画を

推進していきたい。

尾崎委員：「健康かんまき 21」は説明があったように長らく続いている。全国的に継続している市町村は少ない。これだけ続いているにも関わらず、町職員の認識がすごく薄い。

委員長：庁内でどう横の連携をするのか。先ほど公助の話もあったが、どう繋げるかが今回のキーワードになっている。行政が発信できることはしっかりやらないといけないし、住民がやれるところは力を出しましょうという仕組みが非常に大事になってくると思う。具体的にどのように横繋ぎをしていくのかというご指摘でもあったと思う。

他にいかがか。

岡本委員：お話しがいくつか出てきた中で今思ったことだが、「健康かんまき 21」は健康増進のためということだった。それと介護保険事業計画も並行して策定されている。介護予防の取組で居場所づくり等が色々な形であると思う。地域づくりや居場所・見守りに関する事項が複数の計画で同じように出てきていると思う。良い機会なので関連付けて、既存の貴重な資源として住民に認知してもらえれば良いのではないか。そういう目で行政や社協側からも地域の取組を見てもらえれば良いと感じた。

質問したい。65 ページに今回の重点施策として「気になる会議」が位置づけられている。地域に根ざした活動をしている中で心配なことや気になる人等、色々な気づきがある。これを個人で思っている間は何にも繋がらないが、お互いに知ることによって一歩を踏み出すきっかけになる。住民自身がする見守り会議という位置づけで、県内の他の地域でも始まっている取組である。そういう理解に立って考えた時に、「モデル地区を指定して開催します」とあるが、これは「社協」が主語になると思う。「気になる会議」の一番の真骨頂は、住民自身が開催しているところである。そこに福祉関係者も参加させていただく。例えば「開催を推進します」という表現にすると良いのではないか。

68 ページの重点施策「若い世代の活動支援」について、新しい発想で何かお考えがあるかと思う。少し詳しく説明いただきたい。

74 ページの社協の役割の 2 つ目の「～買い物、見守り等の生活支援サービスの創出・実施に努めます」が前後の文脈とあまり合わないので精査してほしい。

80 ページの社協の主な取り組みの「②災害ボランティアセンター設置」に「地域住民の生活再建を行うため」という記載がある。生活再建全てをボランティアで担うことは大きな話しすぎる。そうではなく、福祉的な課題を抱えられている方をはじめとして、住民相互の助け合いで支えられる部分を支えて

いくという理解が近いのではないか。

植村局長：まず 65 ページの「気になる会議」についておっしゃるとおりだと思う。「開催支援を行う」とか「モデル地区を選定して協議していく」という書き方に変えたいと思う。

次に 68 ページの「若い世代の活動支援」について、具体的な事例としては、2 年ほど前から社協まつりで子育て中のお母さん達がされている、基本的には福祉活動とは直接関わりのないグループのフリーマーケット等と連携しながら共同開催を進めている。町のボランティア連絡協議会のグループの中でも比較的若い方達で、里山で遊び場をつくりながらそこにひきこもりの子どもさんをとというような活動をされている。そういう分野での新しい取組、また先ほどの災害もキーになるかもしれないが、今までの福祉のボランティアだけでなく、新しく視野を広げていく取組に力を入れていく意味合いのものになっている。68 ページの書き方ではそれがわからないので、場合によってはコラム的なものを参照しながら意図が伝わるようにしたほうが良いと思う。

74 ページについては、どちらかと言うと生活支援の内容と合致すると思うので他のページに移動したい。

80 ページの②については、スペースの関係もあり 1 行だけになっている。内容を見直して変更したい。

委員長：計画のメインの書き方やイメージ図、言葉の使い方も含めて、検討して修正願いたい。

他いかがか。

55 ページの★印「庁内連携体制の推進」等、地域の方にもわかりやすくお伝えすべき項目については文言の追記等が必要かと思う。

あと事務局とも相談させていただくが、基本目標 2（1）に「地域福祉を担う人材の育成と活用」とある。個人的には活躍したくても、活用はされたくない場合もある。誤解を受けないような書き方のほうが良いと思う。

あと町と社協の連携のイメージ図についてのご提案があったがよろしいか。

誤字・脱字等は事務局で再度確認の上修正願いたい。

今日言い切れなかったことやお気づきの点があれば事務局にお知らせいただきたい。また、最後は委員長預かりとして確認の上修正させていただけたらと思う。

素案については、ここまでとしたい。

（２）今後のスケジュールについて

- ・事務局より、今後のスケジュールについて説明

（３）その他

竹原委員：地域福祉とは直接関係ないことだが、障害者施設でコロナ感染があり、入院できず施設での療養となった。コロナの研修は受けていたが、想定していなかったことがいっぱい見えてきた。その課題を検証して、今後に繋がれば良いと思っている。

委員長：計画の中の新たな生活の仕方という部分にも繋がってくる。情報を共有したり確認したりできるような場が必要だと思う。

他の方はよろしいか。

事務局にお返しする。

事務局：これをもって第３回計画策定委員会を終了する。

４ 閉 会